

キスミレ *Viola orientalis* (Maxim.)W.Becker

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。減少傾向が著しい大陸系の草地性植物で、愛知県は静岡県高草山に次ぐ分布の東限である。県内では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、高さ 10～15cm になる。葉は根生するか茎の上部に接近して互生し、根生葉には長い柄があり、茎葉は柄が短く、葉身は心形、長さ 2.5～4cm、幅 1～3cm、先は短く鋭尖頭、辺縁には波状の鋸歯があり、表面には通常細毛がある。花期は 4～5 月、花柄は茎上の葉の葉腋から出て長さ 2～4cm、花は黄色、花弁は 5 枚で長さ 12～15mm、側弁に毛があり、唇弁と側弁の外側に褐色条がある。距は極めて短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 60960）。作手（高里城山、鳥居喜一 4482, 1957-6-30, HNSM）と蒲郡（御堂山、井波一雄 s.n., 1963-4, CBM 72359）で採集された標本もある。幡豆（洲崎山）にあったという報告もある（牧・岡田, 1976）が、現地では確認できず、確実な資料も残されていない。

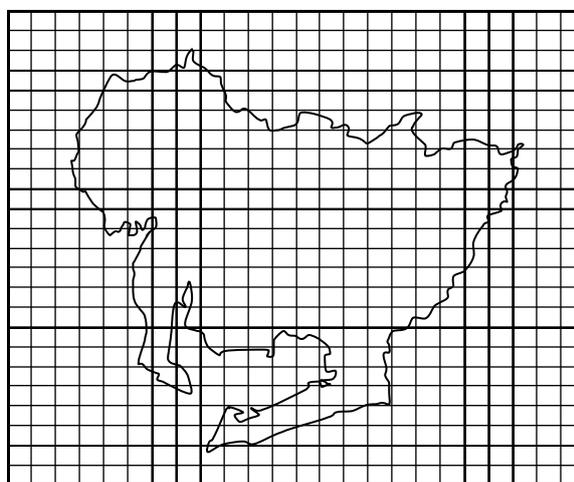
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州中北部に点在する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸（山東半島・東北部）、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山野の日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋の自生地では、かつては山が黄色になるくらいあったと言うが、最近では個体数も少なく、低木やササ類に覆われて絶滅寸前であった。刈り取りを行った結果ある程度回復したが、このようにすると今度は花が目立ち、園芸目的で採取される心配がある。

【保全上の留意点】

草地環境の維持が必要であるが、それと園芸目的の採取の防止はなかなか両立しない。よく知られている場所ではあるが、それでもこれ以上の採取とカメラマンや観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際して慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

黄花のスミレとしては、暖帯域に生育する唯一の種類である。

【引用文献】

牧 正吾・岡田 速, 1976. 幡豆町の自然 地質・植物編, 幡豆町. 47pp.

【関連文献】

保草本 p.53、平草本 p.252、SOS 旧版 p.65 + 図版 12、環境庁 p.490、SOS 新版 p.58,60。